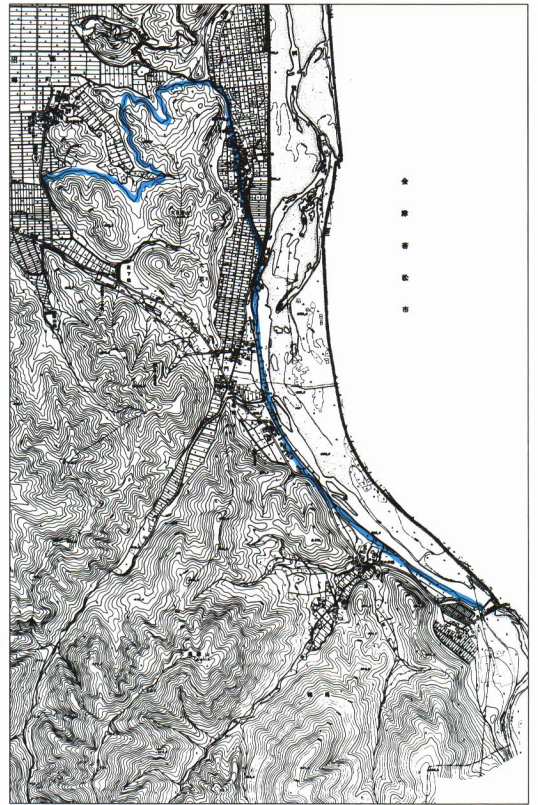


くの<sup>あが</sup>阿賀川（大川）から水を引く事業を思いたち、自分のお金を出して仕事を始めました。<sup>はんかく</sup>藩に隠れて山をひらき、河原に石をつんで<sup>ほり</sup>堀をついたり、ほらあなをほったりしての作業は非常に<sup>こんなん</sup>困難であったといわれています。

1626（<sup>かんえい</sup>寛永3）年、徳元は、水路の長さ4キロあまり、28年間をかけて「<sup>うつろぜき</sup>うつろぜき」の<sup>かんせい</sup>大事業を完成させました。

村人たちはその<sup>かんしゃ</sup>労苦に感謝して柳西の山ぎわに<sup>どうぼ</sup>お堂と墓



うつろぜき水路

<sup>ひ</sup>碑をたてました。また、1887（明治20）年には、<sup>こうせき</sup>うつろ坂に徳元の功績をたたえた碑がたてられました。



うつろぜきの碑